

吉田食品工業株式会社様

(社)日本グラフィックデザイナー協会
香川県デザイナー協会理事
猪子デザイン研究室 主宰
猪子進 INOKO SUSUMU

新規の商品開発で 一気に全国展開へ

吉田食品工業株式会社代表取締役 吉田道数氏・本社・香南町）
地鶏「瀬戸赤どり」のオリジナルブランドを持つ、中・四国鶏肉業界の有力企業。地鶏「瀬戸赤どり」を使った商品を次々に開発し全国に向けて販売している。

今回の新開発商品は鶏肉ラインとは全く違う何と珍しい「とうふうどん」。うどんに絹ごし豆腐を練り込んだ健康志向の讃岐うどんだ。昨年11月三越高松店での試食販売の後、ブーデックスオーサカでも反響を呼び、全国発売となった。

「とうふうどん」はこれまでも存在があまり一般には知られていない。本場さぬきで「とうふうどん」

はどうかと思われたが、食べてみると味に遜色なく、それどころか通常の讃岐うどんに比べ栄養価が高く、億総健康志向時代にはぴったりの商品。さらに絹ごし豆腐を練り込んでいるので鍋物との相性が良くとても美味しくいただける。女性にはイソフラボンが豊富に含まれている事やパスタ感覚で食べることが出来るなど、とても好評なようだ。

しかしこれまであまり馴染みが無く、「とうふうどん」とパッケージに筆文字だけで表現してもピンとこない。それではと、うどんと豆腐の写真を合成した。豆腐からうどんをつまみだしている構図がピタリ！と決まった。文字だけの表現に比べインパクトの強いパッケージとなった。

ユーザーと売り場での 訴求を考慮したパッケージ

パッケージデザインを制作する場合



讃岐とうふうどん(冷凍)の第1弾のパッケージ。開発はまだ始まったばかりでこれから本格的なパッケージ開発が展開される。

▼今回「とうふうどん」と同時に新しく開発された瀬戸赤どりクリームシチュー、コラーゲンスープ、地鶏餃子。



他社製品との差別化を図るブランディング

会社規模の大小に関わらずブランディングの考え方はとても大切。(ブランディングは企業が受けてに向けて発進する情報の二元化。そうすることで最終的に競争市場で独自の位置を占める。)例えばパッケージデザインは赤だけドバンフレットは黄色、新聞広告は緑では受け手が混乱する。そうしたコミュニケーション全体表現の一貫性が極めて必要になってくる。またそうすることによって企業の独自性を発揮することが出来る。

猪子デザイン研究室
高松市宮脇町二丁目七三
〇八七一一八六二一四五三九